

證據書類五〇四一號

極東國際軍事裁判所

第一

亞米利加合衆國其ノ他

荒木貞夫對其ノ他

私、即チ在ニユ一・サウス・ウエールズ州・シ
フニ一號館チャールズ・ロウランド・ブロンリー
リチャーズヘ宣誓ヲ行ヒ次ノ如ク申述マス。

一、私ハN X 七〇二七三號、大尉チャールズ・ロ
ウランド・ブロンリーリチャーズニ十五歳
洲野戰部隊所屬濠洲軍々隊部員デ有リマス。
其ノ當時、即チ一九四二年二月十五日私ハ、
シンガポールニ於テ捕虜トナリマシタ。

二、一九四三年自七月三〇日至八月三〇日ノ間、
私ハ第三支隊ニ屬スル濠洲兵約九百名ノ一團
ト共ニ八〇軒收容所（アベロング）ニ居リマ
シタ。

三、我々カ其處ニ到着シタ時同所ニハ第五支隊所
屬ノ濠洲兵米國兵及ビオランダ兵カ約二百人

Doc 5041

居リマシテ、極度ニ^赤痢、腹氣、マシリヤ及
熱帶潰瘍ニ悩ンデ居リマシタ。

4、彼等ハ我々カ居タ庭カラ約三〇〇ヤード離レ
タ病院收容所ニ居マシタ。此ノ收容所ノ設備
ハ不潔ナ状態ニ有ツタ若干ノアタツプノ

小屋カラ成リ立ツテ居マシタ。

其ノ小屋ハ雨ヲ防グニ充分デ無ク人々ハゾブ
濡ニナリ通シデシタ。此ノ病院收容所ニハ病
人ヲ看護スルニ違シタ人々ハ居マセンデシタ。

5、平均一日ノ死亡者數ハ二名カラ六名デ有リマ
シタ。サウシテ病人カ彼等ノ同僚ヲ墓所ニ運
バネバナリマセンデシタ。

6、日本兵ハ此等ノ病人ヲ看護スル事ヲ我々ニ許
シマセンデシタ併シ私共ハ、内密ニ出掛ケテ行キ
彼等ヲ診察スル事カ出來マシタ。コウシタ事
情ノ下デハ適當ニ處理スル事カ出來無カツタ
ノデス米國軍醫將校一名カ彼等ヲ擔當シテ居
リマシタガ。

7、此等ノ人々ニ與ヘラレタ食糧ハ極ク少量ノ米
デアリマシタ。

Doc 5041

8、唯一ノ醫藥給與ハ日本兵ト物々交換ヲ例ヘベ
ヨード・フオルム一瓶ニ對シ時計一箇ト云フ
様ニシテ入手シ得タノデアリマシタ。
私ハ、日本兵自身カ、俘虜ニ對シ用ヒ得ル醫
療品ヲ持ツテ居タト信ジテイマス。

9、或ル時此等ノ病人ノ一人ニ切斷手術ヲ施ス必
要カ有リマシタ。クランツ少佐ト私ハ、日本
人ニ知レス様ニシテ我々ノ收容所ニ此患者ヲ
運ンデ來ル様取リ計ヒマシタ。ガ手術中、日
本兵達ハ之レヲ知リ、ヤツテ來テ監視致シマ
シタ。我々ハ所持シテ居タ少量ノ麻酔劑ヲ以
テ、病人ヲ麻酔ニカケ、手術ニハ鋸ヲ用ヒ
マシタ。

10、其ノ地域ニ於ケル日本軍司令官ノ方針ハ、人
々カ働イテ居ル間ハ、食事ヲ變ケラレルカ、病
病人ニナルト忽チ彼等ハ「削除」サレテシマ
ヒ生キナガラ死ヲ待ツ此ノ特殊ノ病院ニ送ラ
レルノデアリマシタ。

3.

Doc 5041

II、私ハ、此等ノ人々ガ生ラ續ケ、ヤカテ死ンデ
イツタ狀程恐怖スベキモノヲ想像スル事カ
出来マセン。其レハ誠ニ生キナカラノ死体敷
容所デ有リマシタ。

シ・アール・ビー・リチャーズ／署名／
C. R. B. Richards

一九四六年九月五日、シドニーニ於テ余ノ面前
ニテ宣誓セリ。

クイーンズランド、最高裁判所判事

エー・ジエー・マンズフィールド／署名／
A. J. Mansfield

4.